

市民病院だより

【病院理念】 市民が安心できる医療の提供

【基本方針】 市民に適切な医療の提供
地域に貢献する医療の構築
健全運営の確保



新しい治療をより多くの患者さんに提供するために
「第16回大崎市民病院登録医のつどい」を開催

令和4年10月17日（月）に「第16回大崎市民病院登録医のつどい」を開催しました。このつどいは、当院の登録医である先生方と、当院医師との連携・交流の推進、地域全体の医療の質向上のための研修会として毎年開催しています。令和4年度は、会場に24人、オンラインで32施設の登録医療機関の先生や関係者の方々の参加がありました。

当日は、当院医師の安齋実がんセンター部長（外科）と池田義弘診療部長（泌尿器科）が「外科・泌尿器科領域の手術支援ロボットの導入について」、岩淵薫副院長が「経カテテルの大動脈弁留置術（TAVI）の導入について」を講演しました。これらの新しい治療法は、患者さんの負担をより軽減し、手術後の回復が早くなることが期待されます。現在の導入の状況や、治療に適應する患者さんの状態、導入の効果などについて報告し、講演後、新しい治療が他の治療の短所を補う点や治療方針の決定に関する内容について意見交換が行われ、登録医の先生方にも理解いただく機会となりました。

当院では、地域の医療機関や関係機関と相互に協力し、地域全体の医療の質向上と充実を図ることを目的とした、登録医制度を構築しています。今後も、市民の皆さんが、住み

慣れた地域で切れ目のない医療が受けられるように、地域全体で健康管理から急性期・慢性期の治療・療養を経て、社会復帰までを一貫してサポートする「地域完結型医療」の構築を目指して取り組んでいきます。



登録医のつどいのようす

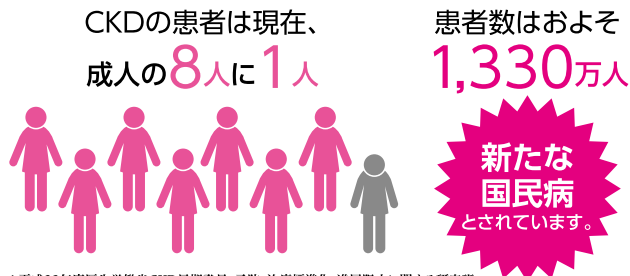
あなたの腎臓は大丈夫？

慢性腎臓病（CKD）は、私たちの生活をおびやかす新たな国民病です。

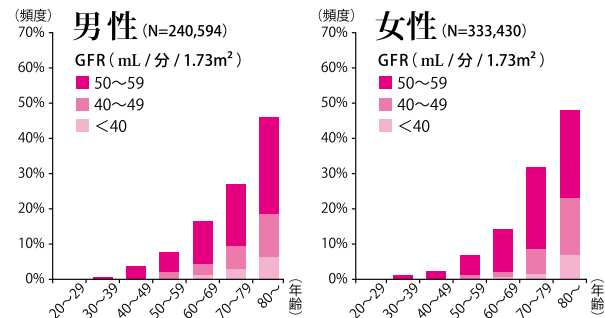
*CKD: Chronic Kidney Disease

皆さんCKDをご存知でしょうか？透析を知っていると一方は多いかと思いますが、その予備軍であるCKDについては聞いた事が無いという方が多いと思います。

CKDとは、①蛋白尿など腎臓の障害がある。②糸球体濾過量（eGFR）が60未満に低下している。①②いずれかが3か月以上持続した状態です。



*平成23年度厚生労働省CKD早期発見・予防・治療標準化・進展阻止に関する研究班



日本腎臓学会は、全国10の都道府県（北海道、山形県、福島県、茨城県、東京都、石川県、大阪府、福岡県、宮崎県、沖縄県）で行われた574,024名の健診データ（男性240,594名、女性333,430名）をもとに、2005年の国勢調査に基づき推定した。図に示すように、男女とも年齢が高くなるほど患者頻度は高くなる。特にステージ3が多く、60歳代では、男性の15.6%、女性の14.6%、70歳代では男性の27.1%、女性の31.3%、80歳代では男性の43.1%、女性の44.5%が相当する。

*日本腎臓学会編：CKD診療ガイドライン2012, P.11, 東京医学社, 2012

CKDは、進行し重症化すると透析治療が必要になります。日本の透析患者は約34万人、国民の380人に一人です。透析になれば週3回、1回4時間の通院治療が必要となります。余病も増え、入退院を繰り返す事となり、透析導入後の5年生存率も60%程度と、決して予後の良い疾患ではありません。

糖尿病患者が推定1000万人、高血圧患者が推定4300万人と言われる中、CKD患者は推定1330万人存在します。ただし、CKDは自覚症状がないため、ほとんどのCKD患者は自分が病気になることに気付いていません。必ず健康診断を受けて尿蛋白、糸球体濾過量（eGFR）を確認しましょう。高齢者に限って言えば4割近くの方がCKDに該当します。

慢性腎臓病は治療で透析開始となるのを防ぐ事ができる！

腎臓は、一度悪くなってしまうと腎機能を回復する事が困難です。尿をつくる工場である糸球体が一度壊れてしま

うと再生する事ができないからです。しかし、生活習慣の改善や薬によって、腎臓を長持ちさせることは可能です。CKDであっても、寿命まで腎臓を長持ちさせることができれば、透析を受けずに生涯を全うする事ができます。CKDに早期から気付いて、腎臓が長持ちするような注意を始めましょう。

慢性腎臓病と診断されたら

- ① かかりつけの先生の診察を受けましょう。
- ② 禁煙し、肥満を是正して、規則正しい生活をししましょう。
- ③ 減塩し、血圧を適切にコントロールしましょう。血圧の管理目標は130/80 mmHg未満です。
- ④ 糖尿病や脂質異常症も治療しましょう。
- ⑤ 腎機能が高度に低下すると、貧血などの問題を生じるので、腎臓専門医の診察を受けましょう。
- ⑥ 腎機能が低下するとお薬の減量や休止が必要となりますので、薬剤師にも相談しましょう。特に一部の痛み止めを連用する事で腎機能を悪化させる場合があります。

CKDの診断・管理には尿検査、血液検査、血圧測定が重要です。定期的な検査を受けてCKDの進行を抑制しましょう！

質の高い医療を提供

令和4年11月28日(月)・29日(火)の2日間、本院で病院機能評価審査を受審しました。

病院機能評価とは、公益財団法人日本医療機能評価機構が、組織全体の運営管理および提供される医療について、中立的、科学的・専門的な見地から評価し、一定以上の基準に達している病院を認定する仕組みです。認定された病院は、地域に根差し、安全・安心・信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院という位置づけになります。本院は、平成29年に認定を受けており、今年度更新のため受審しました。

審査当日は、6人の評価調査者(サーベイヤー)が、病院内で各分野ごとの書類確認や聞き取り調査、外来や病棟への訪問調査などを実施しました。

日頃より、質の高い医療を提供するために、さまざまな改善活動や院内連携、地域連携などに病院一丸となって取り組んでおり、審査後の講評でも良い評価をいただくことができました。これからも、このことに満足することなく、引き続き「市民が安心できる医療の提供」に努めていきます。

なお、令和5年度は鳴子温泉分院、令和6年度は岩出山分院、令和7年度は鹿島台分院でも病院機能評価審査を受審する予定です。

●短期入院で患者さんも家族も笑顔に●

鳴子温泉分院、岩出山分院、鹿島台分院では、今年度から全ての一般病床を「地域包括ケア病床」に変更しました。「地域包括ケア病床」は、急性期医療を経過した患者さんや、在宅療養を行っている患者さんを受け入れます。さらに、患者さんの在宅復帰に向けたリハビリテーションを行う機能を有しています。なお、この3つの分院では、一般診療や初期救急などもこれまで通り行っています。

▽在宅療養を支えます!

患者さんのご家族の事情などで一時的に在宅療養が困難になった場合に、病院に患者さんを持ち、医療保険を利用する短期入院ができます(レスパイト入院)。

▽短期入院のご利用について

- 退院後は、ご自宅または施設に帰ります。
- 介護者が一時的に在宅での介護が困難になった場合にご利用いただけます。
- 褥瘡^{じよくそう}処置、痰吸引、麻薬^{もうやく}の管理、胃瘻^{ろう}(腸瘻)、点滴、在宅酸素などを行っている方も受け入れ可能です。また、介護保険認定の有無にかかわらず入院可能です。
- 入院の際はお薬をご持参ください。
- 入院期間は原則14日以内です。

▽入院費用の目安

下記は、あくまでも一例です。詳しくはお問い合わせください。

入院日数	7日間の場合	14日間の場合
医療保険負担割合	1割負担の場合	
入院費用	約32,000円	約64,000円

※病衣代・おむつ代は別途かかります(おむつは持込可)。

※個室料金は別途3,300円/日かかります。

※高額療養費制度が適用できます。

▽申込方法

まずは下記の連絡先へお問い合わせください。患者さんの状態により受入れが困難な場合がございますので、予めご了承ください。

▽お問い合わせ先

鳴子温泉分院 地域医療連携室

☎ 0229-82-2311

岩出山分院 地域医療連携室

☎ 0229-72-1355

鹿島台分院 地域医療連携室

☎ 0229-56-2611

治療と仕事の両立を支援します！

本院では、宮城産業保健総合支援センターとともに、患者さんや会社の理解と協力を得て、患者さんがもとの職場に戻れるように、または継続できるように、治療と仕事の両立支援を行っています。

患者さんの勤務先や職種、職場環境などを伺い、必要に応じて望ましい就業上の措置などを記載した主治医意見書などを作成します。産業保健スタッフの方々と一緒に、患者さんが復職できるように支援していきます。

開催日	毎月第4火曜日
時間	10:00～13:00
場所	大崎市民病院 1階患者サポートセンター 相談室
利用方法	原則予約制（お一人様1時間） ※上記日程にご都合が合わない方も、 日程調整の相談は可能です。
申し込み先 問い合わせ先	大崎市民病院 患者サポートセンター ☎ 0229-23-3311（代）

市立宇和島病院

人事交流レポート

市立宇和島病院 助産師 中山 星花

私は、大崎市と姉妹都市である、愛媛県宇和島市の市立宇和島病院の助産師です。人事交流の一環として、令和4年8月から3か月間、大崎市民病院の4階東病棟で研修させていただきました。

年々、宇和島市では分娩件数が減少し、思うように分娩につくことが出来ず焦っている中、この研修のお話を頂きました。はじめは遠く離れた場所での研修で不安を感じていましたが、市立宇和島病院でしか経験のなかった私にとっては、こちらでの業務の全てが新しく、毎日が学びであり充実した日々を過ごすことができました。皆さんに快く受け入れていただき、3か月間という限られた時間の中で学びを深められるよう支えてくださったおかげです。

この研修期間、数々の分娩介助につかせて頂き、学んだことがたくさんあります。市立宇和島病院に戻り、助産師として成長した姿を見せることができよう、これからも頑張っていきたいと思えます。



当院の助産師から指導を受ける中山さん（左）

アンケートにご協力ください

当院では、病院の医療機能や役割、取り組みなどをご理解いただくため、広報誌「市民病院だより」を発行しています。誌面づくりの参考にさせていただくため、アンケートを実施していますので、右記QRコードを読み取りいただき、専用サイトからご回答をお願いいたします。



▲バックナンバー



▲アンケート

市民病院だより No.27 2023年1月1日発行【年4回発行】

大崎市民病院 経営管理部経営企画課 TEL 0229-23-3311（内線 3705）

〒989-6183 大崎市古川穂波三丁目8番1号

Web <http://www.h-osaki.jp> E-Mail kikaku@h-osaki.jp



編集・発行